

教育動向

▽県内の動き

1・9 小学校から帰っても家にはだれもいない。「かぎっ子」の実態について、県が九年ぶりに実施した調査結果がまとまった。かぎっ子の割合が高かったのは、豊栄市の二三・五%を最高に、黒崎町二二・七%、亀田町二一・九%、相川町二一・七%の順。かぎっ子の母親は「会社などの勤めに出かけている」が七五・八%、農作業は四・七%にすぎない。子どもの生活状況は「自宅でテレビや本を読む」が四二・六%、「塾へ行く」が一〇%などとなっている。対策は新潟市が最も進んでおり、「ひまわりクラブ」二十一カ所に市が年間四千五百万円の補助を出している。国が一カ所五十二万九千円の補助を出す児童健全育成事業を利用

しているのは新発田市、柏崎市、新潟市、豊栄市だけで、独りぼっちで母親の帰りを待つ子どもがほとんどだ。

(新潟日報)

1・9 新潟県の障害者医療費助成制度が、障害者への運動、共産党福島県議の奮闘などで来年度から対象を二倍に拡大する改善がはかられる。

(赤旗)

1・20 県内の三国立大は十九日、第二次試験の入学願書を締め切ったが、受験生の国公立離れを防ぐ意図で改善されたA・B・Cグループ分けは功を奏し、三大学とも昨年の競争率を大巾に超えた。新大(九学部)には昨年の二倍になる四・八倍の狭き門。長岡技科大は七・三倍(昨年三・九倍)、上越教育大は四・五倍(昨年四・三倍)といずれも昨年の最高倍率を超えた。

(新潟日報)

1・23 有機教育長は「六十年度の本県の高校中退率は一・六%で前年を上回ったが、ここ五年ほどでは一・六%

一・七%の間で推移、横ばいになっている。と実態を説明した。これは帆刈二三氏(社会党県議)の質問に答えたもの。

(新潟日報)

1・23 県警少年課は昨年の少年補導の実態をまとめた。補導数は減少しているものの、女子高校生の補導が大巾に増え、万引が初めて刑法犯の半数を超えた。

(新潟日報)

1・28 長岡市で「いじめ」についての相談件数が減っている。同市教委・分庁舎の少年センター相談室も昨年九月からあわせて二件だけ。「いじめがなくなった訳ではないが、学校側の対応や子どもと親、教師の連携がよくなったため、外部の相談窓口の利用が減ったのではないか」とみている。

(新潟日報)

1・30 県産業教育審議会は二十九日審議経過を「当県高等学校における情報処理教育の推進について」にまとめ

た。具体的な方策として、工業・商業の各教科で情報処理教育をさらに充実拡大するとともに、農業・水産・家庭・看護の各学科でも職業教育の基礎として位置付け、進展する産業社会に柔軟に対応できる職業人の育成を求めた。

(新潟日報)

2・13 盗んだパソコン機器を、パソコン通信網を使って売りさばいていた新潟市内の中学三年生四人が、十二日までに、補導された。

(新潟日報)

2・15 私立日本文理高校の設置に絡み、県から用地購入費などの補助金をだまし取った、として「教育をよくする新潟市民会議」から告発されていた長谷川又二前理事長について県警と新潟西署は十四日、詐欺の疑いで新潟地検に書類送検した。

(新潟日報)

2・20 高校生の交通事故が急増している。昨年の県内高校生の事故件数は千百五十九件。史上最悪だった四十七

年の千二百六十二件に迫る勢いだ。ほぼ二学級に一人の生徒が、事故でけがをしていることになる。「高校生は幼児や高令者と違い、交通規則が分からないのではない。安全意識が欠けている。だから、たちが悪い」と関係者は頭を抱えている。

(新潟日報)

2・21 六十二年度公立高校の最終的な志願者数が確定した。

▽県立 募集学級

六六五

募集定員

二九一五〇人

志願者数

三〇六四九人

▽市立

募集学級

二〇

募集定員

八八〇人

志願者数

一一二二人

▽定時制(県立市立合計)

募集学級

一一三

募集定員

九二〇人

志願者数

四〇二人

(新潟日報)

2・22 県教育委員会は二十一日までに、拾ったクレジットカードを使って

次々と詐欺を行っていた新潟市真砂四、中学校教諭村山文隆(三〇)を徹戒免職の処分にした。

(新潟日報)

2・23 「障害児をもつ父母の苦しみは(障害児教育の専門家の)私たちにも到底わかるはずはありません。しかし近づくことはできません。いいえその努力をしなければ……」二十五年間も障害児とかかわって来た県立村上養護学校の桜井政一郎校長が、障害児の父母たちの手記を手作りの小冊子にまとめ「一般の人たちの理解の一助に……」と校長室を訪れる人などに配布している。

(新潟日報)

2・23 新潟県教育委員会の予算で見ると、「投資的経費」はわずが二・一％、四十億円に過ぎない。しかも、今年度当初より六億円近くも削り込まれた。こうした状況の中、県は新年度から高校生の大学進学率向上に取り組む。各学区に県立高校一校を「進学指導推

進校」に指定して進学指導の徹底を図る。今年度から始まった数学と英語の学力向上対策と対をなすもので、この施策の背景には、全国レベルに比べ極端に低い進学率（最下位）が県議会などで再三、論議されたことがある。

これに対して坂本典子さん（新大助教）は「いまなんで進学指導推進校？と疑問です。今でさえ予備校化がいわれているうえさらに、という気持ちはもちろん、進学率の低いことがそんなに恥でしょうか。「どう生きるか」が問われている時代に「大学だけがすべて」の価値観を押しつけるような教育では困りますね」と語っている。

（新潟日報）

3・4 学校の荒廃が叫ばれ、生徒指導のあり方が問われているが、長岡市立宮内中学校は、生徒たちが話しあいの中で、校則の見直しをしながら非行を減らすユニークな指導をしている。規則で押さえ付けるだけでは、いじめなどが教師の目の届かないところで起

きがちなことから、生徒の自主性を尊重したもだ。県内や県外の中学校から視察や問い合わせが多い。

（新潟日報）

3・10 佐渡島内の高校を今春卒業する千百一人のうち、島内に就職が決まった者が百七十一人と、過去最高の人数となった。「佐渡地区就職激励の集い」は、「仕事ばかりでなく、島づくりに熱意を」と激励や期待を込めた来賓のあいさつが続き、若者が残ったことに関係者の喜びは大きい。

（新潟日報）

3・11 九日の県議会総文委で福島富県議（共産党）が私立高校生にたいする授業料補助が八十一年間も据えおかれ、適用率が下がっている問題を指摘し、県に「ご指摘のとおりであり、凍結する考えはなく（増額も）十分検討していく」と約束させた。この間私学の初年度納入金は七九年の年約二十五万五千円から八六年の約三十二万一千円に上がっている。福島県議は、「昨

年十二月県議会でも拡充の請願が採択されており、県民の学が権利を保障し、父母負担軽減をはかる授業料補助の役割はいつそう大きくなっている」と語っている。

（赤旗）

3・25 県私立学校審議会が二十五日県庁で開かれ、県から諮問のあった長谷川又二・白ゆり学園理事長に対する理事解職勧告について審議した。その結果、当面は本人に謝罪の意を表明させるとともに、半年の期限を切って財産管理面の不正を是正させ、それでも改善されない場合は解職勧告以外に道はないとの結論で意見の一致をみた。

（新潟日報）

▽国内の動き

1・13 文部省は、六十年度の高校中退者が史上最高の十一万四千八百三十四人と発表。

（毎日新聞）

